

JAPAN FIRE EQUIPMENT INSPECTION INSTITUTE

検定協会だより

令和7年3月 第531号





令和7年3月号

<https://www.jfeii.or.jp>

目次

巻頭のことば

- 1 災害に強く、安全・安心な「選ばれる都市」を目指して

さいたま市消防局長 長江 照夫

協会情報

- 4 一般公開のお知らせ

日本消防検定協会
消防庁 消防大学校・消防研究センター
一般財団法人 消防防災科学センター

- 7 「スプリンクラー試験室の試験設備」の移設報告

消火・消防設備部 消火設備課

- 11 検定対象機械器具等及び自主表示対象機械器具等の
技術上の規格に関する意見具申について

消火・消防設備部

- 15 ホームページリニューアル情報
(型式情報検索システム)

情報管理課

おしらせ

- 16 令和7年度消防防災科学技術賞の作品募集

消防研究センター

- 17 令和6年度住宅防火防災推進シンポジウムの開催について

住宅防火対策推進協議会
(一財) 日本防火・危機管理促進協会

- 22 有効期限を経過した受託評価品目

- 23 協会通信・業界の動き・
消防庁の動き

- 28 検定・性能評価・受託評価数量
(令和7年2月)

- 26 新たに取得された型式一覧

災害に強く、安全・安心な 「選ばれる都市」を目指して



さいたま市消防局長
長江 照夫

【さいたま市の紹介】

さいたま市は埼玉県の南東部に位置し、古くは中山道の宿場町として発展した歴史を持つ県庁所在地であり、平成13年5月1日に旧浦和市・大宮市・与野市の3市合併により誕生しました。その後、平成15年に全国で13番目となる政令指定都市へと移行し、平成17年の旧岩槻市との合併を経て、令和3年にさいたま市誕生20周年という節目を迎えたところです。そして、令和5年は、政令指定都市移行・区制施行20周年となり、10行政区に人口約134万人（令和6年4月1日）を擁する都市として発展を続けています。

また、東北・上越など新幹線6路線を始め、JR各線や私鉄線が結節する東日本の交流拠点都市であるほか、高度で多様な都市機能を集積するとともに、都市近郊にありながら見沼田圃をはじめとする規模の大きな緑地や水辺を多く有しています。

このように、都市と自然が共存した街並みが当市の魅力であり、市民意識調査では、8割以上の方が、「住みやすい」「住み続けたい」と感じられる結果となっています。

なお、2021年に開催された東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会では、当市の「さいたまスーパーアリーナ」でバスケットボール、「埼玉スタジアム2002」でサッカーの両競技が実施されました。

【さいたま市消防局について】

当局は、1局3部9課2室10消防署16出張所で構成され、職員数は令和6年4月1日現在で1,358名（うち女性61名）となっています。

当局では、市民の生命と財産を守るため、「さいたま市消防力整備計画」を策定し、消防署所、車両及び人員を計画的に整備することで、災害に強い都市の実現に向けて、消防体制の充実強化を図る取り組みを進めています。

また、消防業務の高度化及び効率化を図り、安全・確実・迅速な消防サービスを市民に提供するために、資格取得または各種研修を通して人材育成を促進し、消防活動能力の向上を図っています。

【複雑多様化する災害への対応】

当市では世界最高峰の自転車競技大会「ツール・ド・フランス」の名を冠した「さいたまクリテリウム」など、国際的スポーツイベントを開催しています。

消防局としては、こうした国際的イベントの開催期間中に万全な消防体制を確立し、市民及び来訪者の安全・安心を確保するため、多言語対応やテロ災害等への対応強化を行っています。

また、近年、災害の様態は複雑多様化してきていることから、あらゆる災害に的確に対応できるよう、先進技術を活用した消防体制の強化について調査検討を進めるとともに、消防職員の知識や技術を高めるなど、より一層、消防活動能力の向上を図っていきます。

【救急需要増大への対応】

救急出場件数は年々増加の傾向にあり、当局では、救急需要対策として、市民の救急要請判断の一助となるよう「119救急ガイド」の冊子を全戸配布し、さらにWEBサイト「さいたま市救急受診ガイド」を運用し、救急車の適正利用を呼び掛けています。

また、令和4年頃からは救急事案の増加により、救急隊が食事をとれないほどの連続出場が続いているため、SNSによる広報活動をはじめ、日本フランチャイズチェーン協会及び日本チェーンドラッグストア協会に協力を依頼し、救急隊のコンビニ利用について制度化し、隊員の労務負担の軽減にも対応しています。

こうした取り組みにより、救急事案がひっ迫している状況に対して、万全な救急体制の維持に努めています。

【市民の防火・防災意識の高揚に向けて】

市民、事業所の防火・防災意識の高揚を図るためには、直接的な防火指導に加え災害の疑似体験ができる防火・防災学習の機会を提供することが必要です。

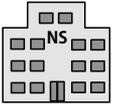
当局では、住宅火災による高齢者の被害軽減を図るため、高齢者に重点を置いた高齢者防火運動及び防火訪問を実施しているほか、過去の火災や事故を踏まえた計画的な査察の実施及び事業者を対象とした講習会を開催し、防火安全対策の徹底を図っています。

また、本市防災展示ホールでは、火災や水害等の疑似体験ができるVR災害疑似体験をはじめとした各体験コーナーを充実させ、防火・防災学習の機会を提供しています。

【終わりに】

以上、当局の取り組みについて紹介させていただきましたが、今後も関係機関の皆様との連携をより緊密にし、市民の安全・安心を確保するために尽力してまいりますので、引き続き本市の消防行政に対するご理解とご協力をお願い申し上げます。

結びに、日本消防検定協会様並びに消防防災分野にご尽力いただいている皆様の益々のご発展を祈念し、巻頭の言葉とさせていただきます。



一般公開のお知らせ

日本消防検定協会
消防庁 消防大学校・消防研究センター
一般財団法人 消防防災科学センター

日本消防検定協会、消防庁消防大学校・消防研究センター及び一般財団法人消防防災科学センターでは、令和7年度の科学技術週間にあたり、一般の方々に試験研究施設を公開するとともに、消防用機械器具等や消防防災の科学技術に関する研究の展示、実演等をおこないますので、皆様をお誘い合わせの上、ご来場くださいますようお願い申し上げます。

記

1 日時

- (1) 実開催 入場無料
令和7年4月18日（金）
午前10時から午後4時まで
- (2) オンライン開催
令和7年4月11日（金）～21日（月）

2 オンライン開催

消防研究センターホームページ
(<https://nrifd.fdma.go.jp/>)

3 実開催場所

(同一敷地内にあります。)

日本消防検定協会

(東京都調布市深大寺東町4-35-16)

消防大学校・消防研究センター

(東京都調布市深大寺東町4-35-3)

4 公開内容

【日本消防検定協会】

住宅用消火器による消火実演、消火器の操作体験、屋内消火栓の操作説明及び操作体験、住宅用防災警報器の展示及び実演、各種消防用機械器具等の展示

【消防大学校・消防研究センター】

- (1) 実開催で予定している公開内容
消防車両の展示、軽油の燃焼実験、災害時の消防力・消防活動能力向上に関する研究開発の紹介、石油タンクの安全性に関する研究開発の紹介、原因調査室の業務紹介等
- (2) オンライン開催で予定している公開内容
消防大学校での教育訓練、大型石油

タンクの地震時底板浮き上がり応答解析、高発泡装置を用いた泡消火実験、土砂災害における搜索救助活動の安全性を向上させるための研究の紹介等

【消防防災科学センター】

避難所HUG（風水害版）の実演、消防力適正配置等調査、近年起きた災害等の被害や災害対応の状況を写真などで紹介

5 交通機関

- (1) JR中央線・京王井の頭線吉祥寺駅南口、6番乗り場
〈野ヶ谷経由〉「深大寺」「野ヶ谷」「調布駅北口」行きバスで「消防大学前」下車
- (2) JR中央線三鷹駅南口、8番乗り場
「野ヶ谷」行きバスで「消防大学前」下車

- (3) 京王線調布駅北口、11番乗り場
晃華学園東・杏林大学病院前経由「三鷹駅」行きバスで「中原3丁目」下車、徒歩5分

6 問い合わせ先

■日本消防検定協会 企画研究部情報管理課
0422-44-7471(代)
<https://www.jfeii.or.jp/>

■消防研究センター 研究企画室
0422-44-8331(代)
<https://nrifd.fdma.go.jp/>

■一般財団法人消防防災科学センター 総務部
0422-49-1113(代)
<https://www.isad.or.jp/>

公開内容（日本消防検定協会）

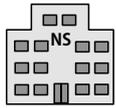
項目	概要	場所・時間
住宅用消火器の消火実演	住宅用消火器による天ぶら油火災の消火実演を見学できます。	消火散水試験場 実演：①11:30 ②14:30
消火器の操作体験	訓練用消火器を用いて目標物に放射する消火体験ができます。	消火散水試験場 操作体験・消火体験 随時 (12:00～13:00は除く)
屋内消火栓の操作説明及び操作体験	屋内消火栓の構造説明と操作実演を行います。また、屋内消火栓を用いて目標物に放水する消火操作を体験できます。	スプリンクラー 消火試験場
住宅用防災警報器の展示及び実演	住宅用防災警報器を紹介します。また、無線式の住宅用防災警報器が連動する様子を見学できます。	情報館1階 実演：随時
各種消防用機械器具等の展示	消火器、スプリンクラーヘッド、火災報知設備、消防用ホースなど、各種消防用機械器具等を紹介합니다。	情報館1・2階 展示室 随時
ビデオ放映	日本消防検定協会及び消防機器の検定制度についてのビデオを放映します。	情報館3階 会議室
休憩所	コーヒー、お茶をセルフサービスで用意します。	情報館3階 会議室



住宅用消火器による消火実演



屋内消火栓の操作体験



「スプリンクラー試験室の試験設備」の 移設報告

消火・消防設備部 消火設備課

はじめに

閉鎖型スプリンクラーヘッド（以下「ヘッド」という。）の型式試験に係る試験設備は、中央試験場の建て替えにより、新中央試験場のスプリンクラー試験室へ移設を令和6年12月に完了いたしました。移設した試験設備について簡単にご説明します。

移設した試験設備

(1) 水撃試験機

水撃試験に使用する試験機です。毎秒0.35MPaから3.5MPaまでの圧力変動をヘッドに4000回加えることができます。1度に10個のヘッドを取り付けることができます。



水撃試験機

(2) 感熱体試験機

ヒューズブルリンクの強度に使用する試験機です。ヘッドから取り出したヒューズブルリンクに荷重を240時間加えます。



感熱体試験機

(3) 熱気流感度試験機

感度試験に使用する試験機です。風洞内を熱気流が循環しており熱気流によりヘッドの作動を試験するための装置です。最高450℃の高温気流を発生させるための風洞装置と、温度を制御する制御盤装置で構成されています。気流は風速温度計を用いて測定しています。



熱気流感度試験機

(4) 作動温度試験機

ヘッドの作動温度を測定する装置です。感度試験は熱気流による作動ですが、当該試験機はヘッド全体を同じ温度にして設計された温度でのヘッドの作動を測定します。



作動温度試験機

(5) 設計荷重試験機

設計荷重試験、フレームの永久歪みに使用する試験機です。ヘッドが設計された荷重で組み立てているかを測定します。



設計荷重試験機

(6) 恒温槽

環境温度試験に使用する試験機です。試験条件に合わせプログラムを設定し使用します。厳しい環境下にヘッドを長時間置くことにより性能への影響を確認しています。

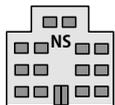


恒温槽

最後に、新たなスプリンクラー試験室には感度試験の熱を排出する際に室内が負圧になることを防ぐ目的で給気口を設けています。



給気口



検定対象機械器具等及び自主表示対象機械器具等の技術上の規格に関する意見具申について

消火・消防設備部

はじめに

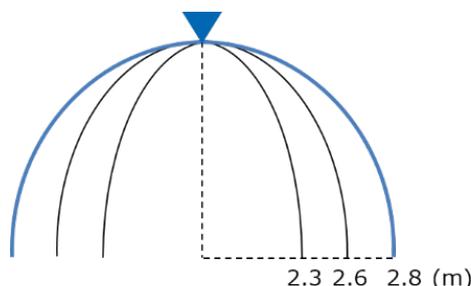
新しい技術及び国際規格への対応のため、閉鎖型スプリンクラーヘッド、消防用結合金具、消防用ホース及び動力消防ポンプについて規格の見直しをすることになりました。日本消防検定協会から技術的な事項について総務大臣へ意見具申できることとなっていることから、2024年に消防用機械器具等規格研究委員会（以下「親委員会」という。）を設置しました。

まず、親委員会から消火設備規格研究専門部会、放水器具規格研究専門部会及び動力消防ポンプ等規格研究専門部会に審議を付託し、審議結果を親委員会に報告します。各部会から報告された結果について親委員会で審議し、検討結果を日本消防検定協会できりまとめ、総務大臣に意見具申しました。意見具申した概要について以下に説明いたします。

1 閉鎖型スプリンクラーヘッドの技術上の規格に関する意見具申の概要

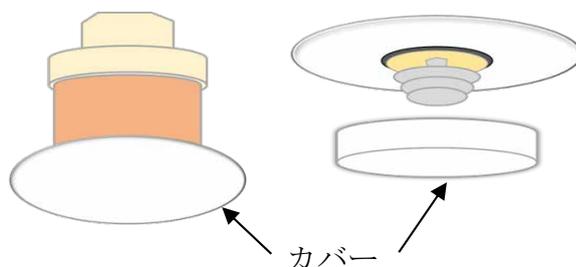
(1) 有効散水半径（以下「r」という。）2.8mの追加

新しい技術である基準の特例の実績を踏まえ、現行の技術上の規格のr2.3mとr2.6mに加え、r2.8mの感度と散水分布曲線を追加した。



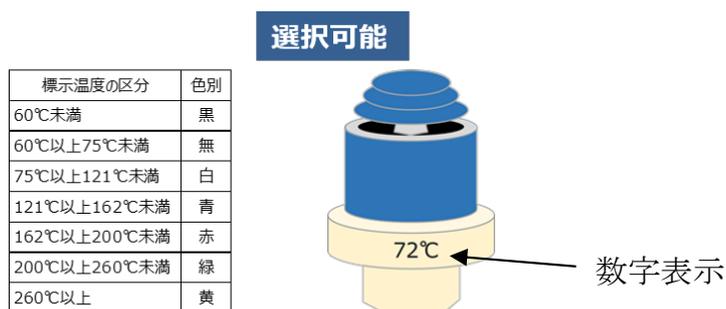
(2) コンシールドヘッド（天井に設置されたスプリンクラーヘッドに意匠目的としてカバーを装着したもの）の追加

新しい技術である基準の特例の実績を踏まえ、カバーの構造に関する規定及びコンシールドヘッドの試験（作動試験、感度試験等）を追加した。



(3) 標示温度の表示方法

国際規格（ISO6182-1）と同様に、現状作動温度を規定色で表示しているものを、作動温度を数字表示すれば色別表示を不要とすることとした。



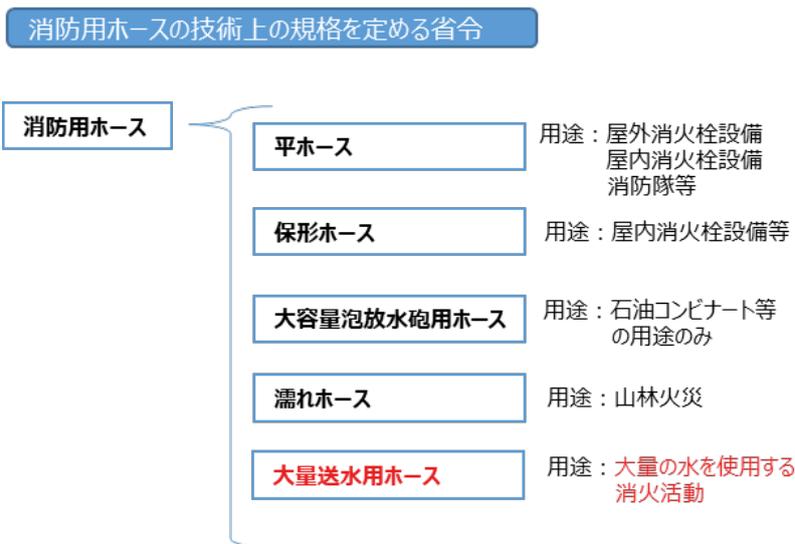
(4) ワックスヘッドに関する試験項目の追加

国際規格（ISO6182-1）と同様に、防食目的としてワックスをコーティングしたスプリンクラーヘッドのワックスに関する試験（蒸発試験及び高温試験）を追加した。ISO6182-1はUL/ULC199を参考に行っている。蒸発試験及び高温試験の試験温度は消防法施行規則第14条の最高周囲温度に準拠した。



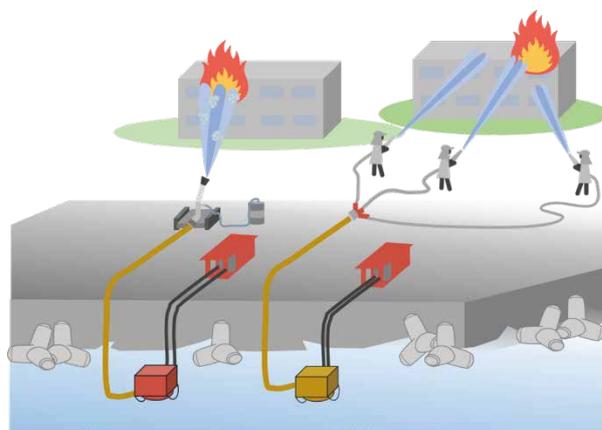
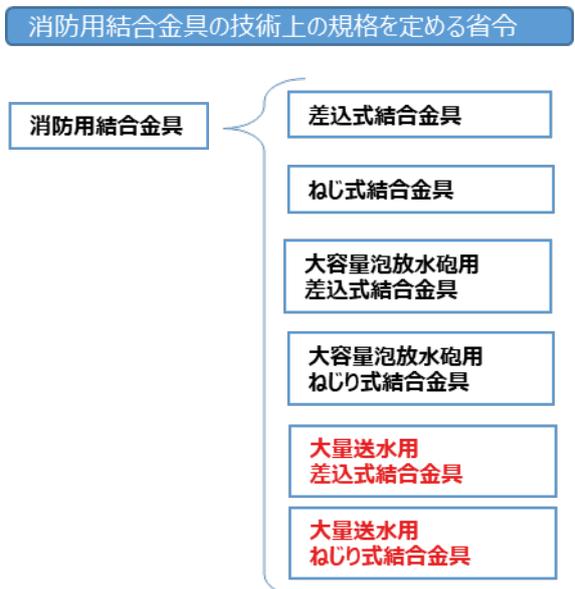
2 消防用ホースの技術上の規格に関する意見具申の概要

新しい技術である基準の特例の実績を踏まえ、新たに大量送水用ホースの規定を定義した。大量送水用ホースは、内径が150ミリメートルを超えるホースであり、大容量泡放水砲用ホースと使用用途が異なることから、破断試験を対象とするなど大容量泡放水砲用ホースとの区分を図った。



3 消防用ホースに使用する差込式又はねじ式の結合金具及び消防用吸管に使用するねじ式の結合金具の技術上の規格に関する意見具申の概要

新しい技術である基準の特例の実績を踏まえ、新たに大量送水用差込式結合金具及び大量送水用ねじり式結合金具の規定を定義した。特例の規格により運用されていたものであり、従来の運用実績を考慮し、性能に係る試験を追加した。



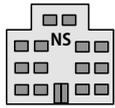
大量送水システムのイメージ図

4 動力消防ポンプの技術上の規格に関する意見具申の概要

国際的な動向による脱炭素化に向けた対応として、機関に新たに「電動機」の規定を定義した。それに伴い、連続放水試験、低温始動試験等を見直した。また、可搬消防ポンプにおいてポンプの級別による質量規制に関する規定を改定し、質量表示をする規定を追加した。



消防ポンプ自動車（電動機式）



協会情報



ホームページを

リニューアルします!



<https://jfeii.or.jp/index.html>

当協会ホームページのリニューアルを4月に予定しています。

一般の方や消防関係者の方が必要な情報にすぐにアクセスできるようレイアウトの見直しを行い、スマートフォン閲覧時に見やすくなるようスマホ表示にも対応します。

また、ホームページ上で検定対象機械器具の失効状況などの型式情報の検索がしやすくなります。



※上記のレイアウト等は変更する可能性があります。

検定協会だより 令和7年3月

令和7年度消防防災科学技術賞の作品募集

消防研究センター

消防防災機器等の開発・改良、消防防災科学に関する論文及び原因調査に関する事例報告の分野において、優れた業績をあげた等の個人又は団体を消防庁長官が表彰することにより、消防防災科学技術の高度化と消防防災活動の活性化に資することを目的として、「令和7年度 消防防災科学技術賞」の作品募集をいたします。皆様の一層のご応募をお待ちいたしております。

詳細は、消防研究センターホームページ (<https://nrifd.fdma.go.jp>) をご覧ください。



【応募区分】

■消防職員・消防団員等の部

- A. 消防防災機器等の開発・改良
- B. 消防防災科学論文
- C. 消防職員による原因調査事例

■一般の部

- D. 消防防災機器等の開発・改良
- E. 消防防災科学論文

【応募受付期間】

令和7年3月24日(月)～4月18日(金)

※4月18日(金)の消印有効

【表彰】

優れた作品には、11月に行われる表彰式(東京都内)において、消防庁長官より表彰状及び副賞を授与します。

表彰件数は次のとおりです。

●優秀賞

- ・消防職員・消防団員等の部
 - A. 消防防災機器等の開発・改良

- 5件以内
- B. 消防防災科学論文 5件以内
- C. 消防職員による原因調査事例 10件以内
- ・一般の部
 - D. 消防防災機器等の開発・改良 5件以内
 - E. 消防防災科学論文 5件以内

●奨励賞

消防防災機器等の開発・改良、消防防災科学論文及び原因調査事例 3件以内

- ・6月頃に、応募作品の「概要」が消防研究センターホームページで公開されます。
- ・受賞作品は、9月頃に決定・発表される予定です。

問合せ先

消防庁消防研究センター 研究企画部
 TEL: 0422-44-8331 (代表)
 E-mail: hyosho_nrifd8@soumu.go.jp

令和6年度住宅防火防災推進シンポジウムの開催について

住宅防火対策推進協議会
(一財)日本防火・危機管理促進協会

令和6年度の住宅防火防災推進シンポジウムは、住宅防火対策推進協議会の主催で「地域ぐるみで考えよう！住宅防火と防災対策」をテーマに、宮崎県宮崎市、山口県周南市の2会場で開催されましたので、その内容をご紹介します。

1 「宮崎県宮崎市会場」

令和6年12月21日（土）宮崎県宮崎市霧島「JA・AZMホール」で、宮崎市消防局の協力を得て開催されました。

JA・AZMホールは、JR「宮崎駅」から車で10分圏内、宮崎市の中心部よりやや北方に位置し、宮崎大学工学部跡地に建設された施設で最大526名を収容できる大ホールです。

シンポジウムは、主催者及び宮崎市長のあいさつで始まり、第1部「トークショー（ダニエル・カールの防災がんばっぺ）」、第2部「宮崎市消防団女性分団による寸劇」、第3部「住宅用防災機器の紹介」第4部「住宅防火防災に関するパネルディスカッション」の構成で実施されました。

第1部のトークショーでは、宮崎市消防局の有水消防長から市制100周年の記念すべき節目に開催したイベントや記念のロゴマーク及びキャラクターの「みやねこ」の誕生について、宮崎市消防団女性分団員で地元FM宮崎のアナウンサー尾崎さんから消防団の組織概要、活動状況及び地元の名勝、名物などについてそれぞれ



れ紹介され、続いてダニエル・カールさんからアメリカの消防事情の紹介やアメリカにおける住宅用火災警報器設置率等のお話がありました。

第2部の寸劇「わが家のいのちを守る住宅用火災警報器～今すぐチェック！～」では、女性消防団員、消防団員（友情出演）、消防職員の総勢15名が出演する寸劇が「『わが家のいのちを守る住宅用火災警報器 今すぐチェック！』のお話のはじまり・はじまり！」の台詞で幕が上がりました。夫婦役、子役、日本火災警報器工業会のマスコット「とりカエルくん」の名演技で、会場は笑いの渦に包まれました。寸劇を通して、住宅用火災報知器の有効性を感じてもらうことができました。



第3部の「住宅用防災機器の紹介」は、今年度からの新たな企画として、参加関係団体の担当者がそれぞれの機器等を手に持ち、舞台上から各住宅用防災機器の有効性等についてビデオ上映とともに説明を行うものです。一番手として登場した総務省消防庁職員からは「感震ブレーカー」についての説明が紹介動画の上映と併せて行われました。各住宅用防災機器の説明に対しダニエル・カールさんの的確な感想も飛びだしました。



第4部の「パネルディスカッション」では、当協会山口理事長をコーディネーターとし、ダニエル・カールさん、泉総務省消防庁予防課予防係長、高橋消防団長、茜ヶ久保宮崎県・宮崎市婦人防火クラブ会長、佐藤宮崎市消防局次長、村角宮崎市消防局予防課長がパネリストとして登壇されました。はじめに泉予防係長から全国で発生した住宅火災の現状や住宅火災による死者数の状況について説明があり、これを受けて佐藤次長から宮崎市消防局管内における過去5年間の火災件数や死者の状況、住宅用火災警報器の奏功事例についての紹介がありました。また、村角予防課長からは第五次宮崎市総合計画に盛り込まれている住宅用火災警



報器の作動点検の目標及び実績についての説明がありました。

続いて、高橋消防団長から消防団の概要、団員確保に関する取り組みと地域における防災リーダーとしての防火・防災活動について紹介がありました。

さらに、茜ヶ久保婦人防火クラブ会長から婦人防火クラブの概要と常日頃から会員同士の顔が見える関係を作る活動の大切さについて紹介されました。

最後にダニエル・カールさんから、アメリカにおける住宅用火災警報器設置による死者の減少、住宅用火災警報器の電池切れの対策、子供用パジャマの防災規制、子供に対する防災教育について紹介されました。

会場ロビーでは、総務省消防庁が感震ブレイカー、(一社)日本火災報知機工業会が住宅用火災警報器、(一社)日本消火器工業会が住宅用消火器、(一社)日本消火装置工業会が住宅用スプリンクラー設備、(公財)日本防災協会が防災品、ガス警報器工業会が火災・ガス・CO警報器をそれぞれ展示し、住宅用防災機器の普及啓発に努めました

2 「山口県周南市会場」

周南市は、山口県の南東部に位置し、平成15年に徳山市、新南陽市、熊毛町及び鹿野町の2市2町の合併によって誕生しました。面積約656km²、人口約14万人のまち「周南市」は、戦前から「軍事のまち」として栄えていたこともあり、瀬戸内海に浮かぶ、のどかで美しい大津島では、太平洋戦争時に、人間魚雷「回天」の訓練が行われていました。現在では、旧「回天」搭乗訓練員の寄宿舍跡に「回天記念館」が建てられ、当時の貴重な資料を展示しています。戦後も重化学工業のまちとして栄え、臨海部には、わが国を代表するコンビナート群が広がっています。このコンビナート群の工場夜景は、煙突から出る蒸気や煌びやかなライトが、幻想的な雰囲気を感じさせることから「日本夜景遺産」に認定されています。周南工場夜景を海上から楽しむことができるクルーズツアーがおすすめです。そんな周南市の周南市文化会館で令和7年2月1日(土)、周南市消防本部の協力でシンポジウムが開催されました。



主催者、周南市市長及び周南市消防長のあいさつに続いて、第1部のトークショー「ダニエル・カールの防災がんばっぺ」では、宮本周南市消防本部次長、八木周南市消防団長が登壇されました。宮本次長からは、周南市のまちの特徴や特産品が紹介されました。

検定協会だより 令和7年3月

ダニエルさんから海や山の自然に恵まれ、産業も発達し、調和がとれているので、暮らしやすく気持ちのいいまちですねとのコメントがありました。八木消防団長からは、周南市の地域の特徴に合わせた訓練の紹介がありました。その訓練とは、「大規模な山林火災を想定した訓練」で、特に重要なことは、ポンプ中継です。ポンプ中継がうまくいかないと放水ができません。このポンプ中継操作は、消防活動の基盤ともいえる重要な技術であり、各団員が習熟することで、実災害において、迅速かつ効果的な消火活動が行えるように訓練しているとの紹介がありました。

第2部の「住宅用防災機器の紹介」では、参加関係団体の担当者がそれぞれの機器等を手に持ち舞台上で熱のこもった説明を行いました。総務省消防庁職員から「感震ブレーカー」についての説明があり、日本火災報知機工業会機器からは住宅用火災警報器の点検要領の実演が行われました。また、当協議会が今年度制作した住宅用防災機器についての紹介動画を見て、客席の皆さんの納得の表情もうかがえました。

第3部の地元保育園幼年消防クラブ員による「僕たち私たちのサンバで火の用心」の実演がありました。お揃いの法被とはちまき姿の園児たちが、「ワッショイ！ワッショイ！」の掛け声とともにお神輿とまとい振込みで登場し、客席は大きな手拍子と笑顔で盛り上がりました。実演の後半は、有名なサンバリズムに合わせたダンス、最後に声を合わせ火の用心の誓いをする園児たちに大きな拍手が贈られました。



第4部は、当協会山口理事長をコーディネーターに、ダニエル・カールさんのほか泉総務省消防庁予防課予防係長、神足周南市消防本部予防課長、河村周南市消防団副団長、松村須々万女性防火クラブ委員長がパネリストとして登壇されました。まず、泉予防係長から全国の住宅火災の現状について説明があり、続いて周南市における火災の発生状況等について神足予防課長から説明があり、住宅用火災警報器の設置状況について条例適合率が低下している原因として設置後10年を経過した機器が増えてきており、これらの一部が故障又は電池切れにより取り外されることが1つの要因と考えられ会場に向けて定期的な「点検」と「手



入れ」のお願いがありました。河村消防団副団長からは、防災のリーダーとして、住民の安全・安心を守るという重要な役割を担うため、訓練や防火・防災活動に取り組んでいることについての紹介がありました。

松村須々万女性防火クラブ委員長からは、防災の3原則「自助・共助・公助」の大切さについてのお話がありました。

最後は、ダニエル・カールさんの音頭で「防火・防災がんばっぺ！」コールを登壇者全員と客席のみなさんで行い、閉会しました。

本会場ロビーでも来場者に対して、消防庁、各工業会の皆さんによって、感震ブレーカー、住宅用火災警報器、住宅用消火器、住宅用スプリンクラー設備、防災品、火災・ガス・CO警報器などの紹介が行われ、住宅用防災機器等の普及啓発に努めました。



「防火・防災がんばっぺ！」コール



有効期限を経過した受託評価品目

【非常警報設備・増幅器及び操作部】

型式番号	承認年月日	住所	依頼者	有効期限の終期日
認評放第27～5～1号	R1.12.16	東京都港区港南四丁目1番8号	株式会社JVCケンウッド・公共産業システム	R6.12.15
認評放第21～10号	H21.12.18	東京都港区港南四丁目1番8号	株式会社JVCケンウッド・公共産業システム	R6.12.17

【非常警報設備・遠隔操作器】

型式番号	承認年月日	住所	依頼者	有効期限の終期日
認評放第21～11号	H21.12.18	東京都港区港南四丁目1番8号	株式会社JVCケンウッド・公共産業システム	R6.12.17

【非常警報設備・非常電話】

型式番号	承認年月日	住所	依頼者	有効期限の終期日
認評放第27～1号	H27.1.26	東京都北区田端六丁目1番1号	日本ドライケミカル株式会社	R7.1.25

上記の機械器具等が、型式に係る有効期限を経過しましたのでお知らせします。

上記の機械器具等は、有効期限の終期日以降、当該型式に基づく製品について新たに当協会の型式適合評価を受け、合格表示が行われることはありません。

既に設置され又は型式適合評価を受け合格表示が行われた上記の機械器具等については、型式適合評価時において基準への適合性が確認されており適正な設置及び維持管理がされていれば、当該有効期限の経過による使用への影響はありません。

■■業界の動き■■

－会議等開催状況－

◆（一社）日本火災報知機工業会◆

○業務委員会（令和7年2月13日）

- ・令和6年1月度理事会議事録について
- ・あり方検討小委員会について
- ・事務局長会議について
- ・BIM説明会について
- ・委員長連絡会報告

○メンテナンス委員会

（令和7年2月18日）

- ・点検実務検討小委員会報告
保守点検ページのアクセス解析について
ホームページ保守点検サイトの改訂について
- ・維持運用管理手法小委員会報告
点検を行う上での困りごとについて
令和6年版 消防白書の公表について
定期検査報告項目に係る告示の公布について（1月29日 官報号外）
東消HP 防火管理者の重複選任に関する留意事項 等
- ・委員長連絡会報告

○技術委員会（令和7年2月20日）

- ・火報試験基準検討小委員会報告
- ・感知器の特性調査小委員会報告
- ・あり方検討小委員会報告

- ・連動機構装置等自主評定委員会について

- ・令和7年度技術委員会活動テーマ（案）について

- ・委員長連絡会報告

○設備委員会（令和7年2月27日）

- ・設備性能基準化小委員会報告
光警報装置ピクトグラムのガイドライン改訂およびピクトグラムの制作、広報活動について

- ・「電気設備工事監理指針」の改訂意見について

- ・官公庁関連、業界動向等について

基準の特例を適用した検定対象機械器具等及び自主表示対象機械器具等について

令和6年度消防庁補正予算、令和7年度消防庁予算案及び令和7年度の消防防災に関する地方財政措置の見通し等を踏まえた留意事項について 等

- ・委員長連絡会報告

○システム企画委員会

（令和7年2月28日）

- ・火報企画検討小委員会報告
消防用設備等の設置・維持のあり方に関する検討部会について
火災予防審議会について
- ・あり方検討小委員会報告
- ・委員長連絡会報告

協会通信

○住宅防火推進委員会

(令和7年2月26日)

- ・交換推進WG進捗について
- ・住宅用火災警報器検定申請数について
- ・お客様電話相談室受付結果について
- ・住宅防火防災推進シンポジウム事業(周南市) 報告およびアンケート報告について
- ・住警器スペシャルサイト(HP)の変更点について
- ・委員長連絡会報告

◆(一社)日本消火器工業会◆

○第11回 企業委員会

(令和7年2月6日)

- ・検定等申請・回収状況
- ・機器協会事務局長会議報告
- ・消火器リサイクル推進センターからの報告
- ・その他

○第6回 理事・総務合同会議

(令和7年2月18日)

- ・消火器等の申請・回収状況
- ・令和6年度4～1月収支報告
- ・機器協会会議報告

以下の審議が行われました。

- ・令和6年度決算見込・令和7年度予算(案)について
- ・令和7年度事業計画(案)について
- ・令和7年度 社会貢献事業について

- ・機器協会会長表彰上申について

- ・消火器工業会会長推薦上申について

その他

- ・リチウムイオンバッテリー火災について

○第8回 技術委員会

(令和7年2月28日)

- ・検定細則の見直しについて
- ・その他

◆(一社)日本消火装置工業会◆

○第451回「技術委員会」

(令和7年2月7日 日本消火装置工業会)

- ・令和7年度版 機械設備工事監理指針改訂委員会について
- ・JIS改正原案作成委員会について(進捗状況他)
- ・消防用設備等のリモート点検に関する意見聴取会について
- ・その他

○第232回「第一部技術分科会」

(令和7年2月21日 日本消火装置工業会)

- ・負圧環境下でも使用可能なSPヘッドの一覧更新について
- ・SPヘッドの交換期間の件について
- ・その他

協会通信

協会通信

○第229回「第二部技術分科会」

(令和7年2月20日 日本消火装置工業会)

- ・令和7年度の技術分科会開催日程について
- ・取り扱いマニュアル作成等について
- ・泡消火薬剤リストの更新について
- ・その他

○第211回「第三部技術分科会」

(令和7年2月18日 日本消火装置工業会)

- ・新ガス消火設備の設置基準について
- ・不活性ガス消火設備設計・工事基準書の査読について
- ・令和7年度技術分科会開催予定表について
- ・その他

◆(一社)日本消防ポンプ協会◆

○総務委員会

(令和7年2月25日 日本消防ポンプ協会会議室+web)

- ・事務局長会議等報告について
- ・シャシの供給状況等について
- ・第63期定時総会スケジュールについて
- ・表彰要綱について
- ・令和7年度第1回理事会について
- ・その他

○大型技術委員会

(令和7年2月21日 日本消防ポンプ協会会議室)

- ・検定等の基準認証業務に関する調査に対する今後の対応について
- ・動力消防ポンプ品質評価細則について
- ・その他

○大型技術委員会・検定協会合同会議

(令和7年2月21日 日本消防ポンプ協会会議室)

- ・検定等の基準認証業務に関する調査に対する今後の対応について
- ・動力消防ポンプに係る規格省令改正について
- ・その他

○小型技術委員会

(令和7年2月20日 日本消防ポンプ協会会議室)

- ・動力消防ポンプに係る規格省令改正について
- ・動力消防ポンプ品質評価細則について
- ・検定等の技順認証業務に関する調査に対する今後の対応について
- ・その他

協会通信

検定協会だより 令和7年3月

新たに取得された型式一覧

型式承認

種 別	型式番号	申請者	型 式	承認年月日
定温式スポット型感知器	感第2025～1号	ヤマトプロテック株式会社	1種 (24V、40mA)・公称作動温度70℃、防水型、普通型、再成型	R7.1.17
光電式スポット型感知器 (試験機能付)	感第2025～2号	ホーチキ株式会社	2種 (3V、30mA)・非蓄積型、非防水型、普通型、再成型、散乱光式、無線式 (発信用)、電池方式 (兼用非常電源)	R7.1.17
流水検知装置	流第2025～1号	能美防災株式会社	予作動式 (湿式調圧式)、開閉型80 (10K、縦)	R7.1.17
	流第2025～2号	アイエスプリンクラー株式会社	湿式K50・60、作動弁型80 (10K、縦)	R7.1.17
	流第2025～3号	アイエスプリンクラー株式会社	湿式K50・60、作動弁型100 (10K、縦)	R7.1.17
	流第2025～4号	日本ドライケミカル株式会社	湿式K50・60、作動弁型80 (10K、縦)	R7.1.17
	流第2025～5号	日本ドライケミカル株式会社	湿式K50・60、作動弁型100 (10K、縦)	R7.1.17

型式変更承認

種 別	型式番号	申請者	型 式	承認年月日
熱アナログ式スポット型感知器 (試験機能付)	感第30～15～1号	ホーチキ株式会社	(39.5V、30mA)・公称感知温度45℃～85℃、防水型、普通型、再成型	R7.1.17
G R型受信機 (アナログ式、蓄積式及び自動試験機能付)	受第2021～3～2号	ニッタン株式会社	交流100V、外部配線抵抗20Ω、公称蓄積時間20秒～60秒、公称受信温度45℃～80℃、公称受信濃度 (スポット型) 3.1%/m～15.0%/m	R7.1.22

品質評価 型式評価

種 別	型式番号	依頼者	型 式	承認年月日
防火監視機器・防火監視センサー	品評放第2024～1号	ライフライン株式会社	紫外線式 (DC24V、60mA)	R6.12.26
	品評放第2024～2号	ライフライン株式会社	紫外線式 (DC6V、200mA)	R6.12.26
消防用ホース	H1022EA03A	株式会社 報商製作所	平、合成樹脂、使用圧0.9、呼称50 (シングル、ポリエステル・ポリエステルフィラメント交織、円織)	R6.12.26
	H1022FA04A	株式会社 報商製作所	平、合成樹脂、使用圧0.9、呼称65 (シングル、ポリエステル・ポリエステルフィラメント交織、円織)	R6.12.26
	H1024FC03A	株式会社 報商製作所	平、合成樹脂、使用圧1.3、呼称65 (シングル、ポリエステル・ポリエステルフィラメント綾織、円織)	R6.12.26
特殊消防ポンプ自動車又は特殊消防自動車に係る特殊消火装置	MT-10-10	株式会社モリタ	水槽付消防ポンプ自動車	R7.1.14
	NCA-5M・NT-27B-2	日本機械工業株式会社	大型化学高所放水車	R7.1.17
	MLLAIII 5-35WE1-2	株式会社モリタ	はしご付消防ポンプ自動車	R7.2.10

認定評価 型式評価

種 別	型 式 番 号	依 頼 者	型 式	承認年月日
非常警報設備・一体型	認評非第2025～1号	ニッタン株式会社	防雨型、DC24V	R7.1.30
屋内消火栓設備の屋内消火栓等・ノズル	認評ノ第2024～1号	株式会社立売堀製作所	2号用ノズル（受け口・ねじ式・呼称25）	R6.12.26
特定駐車場用泡消火設備・感知継手	認評駐継第2025～1号	ヤマトプロテック株式会社	バルブ型C68、感知範囲r3.25、呼称20（上向き、下向き）	R7.1.27

特定機器評価 型式評価

種 別	型 式 番 号	依 頼 者	型 式	承認年月日
特定初期拡大抑制機器	特評第286号	日本ドライケミカル株式会社	A火災用添加剤	R6.12.26

検定対象機械器具等申請一覧表

種別	型式試験 申請件数	型式変更試験 申請件数	型式適合検定			
			申請件数	申請個数	対前年 同月比(%)	対前年 累計比(%)
消火器	大型	0	20	4,421	68.6	110.2
	小型	0	67	557,708	113.0	100.7
消火器用消火薬剤	大型用	0	4	169	皆増	85.6
	小型用		7	4,816	104.7	62.5
泡消火薬剤		1	26	213,840	95.2	114.8
感知器	差動式スポット型	0	35	291,487	117.1	94.7
	差動式分布型	0	11	5,125	155.3	80.8
	補償式スポット型	0	0	0	-	-
	定温式感知線型	0	0	0	-	皆増
	定温式スポット型	0	32	126,555	104.4	104.6
	熱アナログ式スポット型	0	11	6,675	97.3	81.0
	熱複合式スポット型	0	0	0	-	-
	イオン化式スポット型	0	0	0	-	皆減
	光電式スポット型	0	35	88,519	78.9	85.6
	光電アナログ式スポット型	0	20	61,040	169.3	94.8
	光電式分離型	0	6	330	275.0	95.3
	光電アナログ式分離型	0	3	143	91.7	124.8
	光電式分布型	0	0	0	-	-
	光電アナログ式分布型	0	0	0	-	252.2
	煙複合式スポット型	0	0	0	-	-
	熱煙複合式スポット型	0	0	0	-	-
	紫外線式スポット型	0	0	0	皆減	101.1
	赤外線式スポット型	0	4	830	87.0	64.5
紫外線赤外線併用式スポット型	0	1	277	皆増	133.3	
炎複合式スポット型等	0	0	0	-	-	
発信機	P型1級	0	10	20,902	105.5	102.3
	P型2級	0	7	3,231	113.9	109.8
	T型	0	0	0	-	-
	M型	0	0	0	-	-
中継器		1	73	48,645	150.3	96.7
受信機	P型1級	0	50	2,720	125.7	97.7
	P型2級	0	15	5,671	139.5	143.0
	P型3級	0	0	0	-	17,850.0
	M型	0	0	0	-	-
	R型	0	8	126	77.3	91.2
	G型	0	3	13	325.0	115.2
	GP型1級	0	11	33	150.0	111.5
	GP型2級	0	0	0	-	-
	GP型3級	0	8	40,170	132.8	105.5
GR型	0	17	267	102.3	94.2	
閉鎖型スプリンクラーヘッド		0	14	69,345	27.7	37.7
流水検知装置		0	32	2,023	83.3	67.2
一斉開放弁		0	35	3,644	146.1	155.8
金属製避難はしご	固定はしご	0	1	5	15.6	136.2
	立てかけはしご	0	0	0	-	-
	つり下げはしご	0	26	14,270	96.3	100.4
緩降機		0	3	530	106.0	101.3
住宅用防災警報器	定温式住宅用防災警報器	0	19	74,694	91.0	91.5
	イオン化式住宅用防災警報器	0	0	0	-	-
	光電式住宅用防災警報器	0	26	374,580	114.7	103.7
合計	2	0	640	2,022,804	99.6	90.5

※前年度の申請個数が「0個」のものは、対前年同月比及び対前年累計比を「皆増」と表記いたします。

※今年度の申請個数が「0個」のものは、対前年同月比及び対前年累計比を「皆減」と表記いたします。

※前年度及び今年度の申請個数が「0個」のものは、対前年同月比及び対前年累計比を「-」と表記いたします。

性能評価申請一覧表

特殊消防用設備等性能評価業務	性能評価申請件数	性能評価変更申請件数
特殊消防用設備等の性能に関する評価	0	0

受託評価等依頼一覧表

品質評価業務	型式評価依頼件数	型式変更評価依頼件数	更新等依頼件数	型式適合評価				
				依頼件数	依頼個数	対前年 同月比(%)	対前年 累計比(%)	
補助警報装置及び中継装置	0	0	0	0	0	-	-	
音響装置	0	0	0	0	0	皆減	112.5	
予備電源	0	0	0	2	18,500	96.4	95.7	
外部試験器	0	0	0	6	190	111.8	83.3	
放火監視機器	放火監視センサー	0	0	1	597	皆増	93.7	
	受信装置等	0	0	0	0	-	皆増	
光警報装置		0	0	2	800	皆増	343.8	
	光警報制御装置	0	0	2	60	皆増	675.0	
屋外警報装置		0	0	0	0	-	-	
	屋外警報装置に接続する中継装置	0	0	0	0	-	-	
消火器加圧用ガス容器	0	0	0	1	8,000	80.0	35.4	
蓄圧式消火器用指示圧力計	0	0	0	6	562,000	159.2	107.3	
消火器及び消火器加圧用ガス容器の容器弁	2	0	0	3	2,350	66.5	62.5	
消火設備用消火薬剤	0		3	4	77,530	179.2	92.8	
住宅用スプリンクラー設備		0	0	0	0	-	-	
	構成部品	0	0	0	0	-	-	
動力消防ポンプ	消防ポンプ自動車	0	0	44	64	125.5	124.3	
	可搬消防ポンプ	0	1	3	286	244.4	96.5	
消防用吸管	呼称65を超えるもの	0	0	2	530	168.3	97.9	
	呼称65以下のもの	0	1	2	320	457.1	109.6	
消防用ホース	平 40を超えるもの	0	0	5	18,578	56.5	89.5	
	平 40以下のもの	0	0	2	31,640	66.1	106.5	
	濡れ	0	0	0	0	-	-	
	保形	0	0	2	2,300	25.6	71.1	
消防用結合金具	大容量泡放水砲用	0	0	0	0	-	-	
	差込式	0	0	5	73,632	68.9	104.8	
	ねじ式	0	0	0	24	14,770	110.3	90.2
	同一形状	0	0	2	152	690.9	108.7	
漏電火災警報器	変流器	0	0	10	3,986	101.7	99.9	
	受信機	0	0	6	1,975	62.9	90.4	
エアゾール式簡易消火具	0	0	0	1	28,980	152.6	104.1	
特殊消防ポンプ自動車	1		0	19	20	71.4	94.0	
特殊消防自動車				2	2	66.7	63.8	
可搬消防ポンプ積載車	0		0	6	6	200.0	92.9	
ホースレイヤー	0	0	0	1	1	皆増	134.4	
消防用積載はしご	0	0	0	3	17	9.6	79.2	
消防用接続器具	0	0	1	10	3,487	87.1	86.7	
品質評価業務				確認評価				
				依頼件数	依頼個数	対前年 同月比(%)	対前年 累計比(%)	
外部試験器の校正				7	39	150.0	126.8	
オーバーホール等整備				5	5	83.3	106.3	

※前年度の依頼個数が「0個」のものは、対前年同月比及び対前年累計比を「皆増」と表記いたします。
 ※今年度の依頼個数が「0個」のものは、対前年同月比及び対前年累計比を「皆減」と表記いたします。
 ※前年度及び今年度の依頼個数が「0個」のものは、対前年同月比及び対前年累計比を「-」と表記いたします。

受託評価等依頼一覧表

認定評価業務	型式評価 依頼件数	型式変更評価 依頼件数	更新等 依頼件数	型式適合評価				
				依頼件数	依頼個数	対前年 同月比(%)	対前年 累計比(%)	
地区音響装置	0	0	0	19	30,824	126.5	100.6	
非常警報設備	非常ベル及び自動式サイレン	0	0	0	31	4,576	84.2	95.3
	放送設備	0	0	0	76	82,292	84.3	107.0
パッケージ型自動消火設備		0	0	0	0	0	-	-
	構成部品	0	0	0	0	0	-	-
総合操作盤	0	0	0	0	0	-	-	
屋内消火栓等	易操作性1号消火栓	0	0	0	7	1,656	84.1	95.2
	2号消火栓	0	0	0	5	470	55.2	82.1
	広範囲型2号消火栓	0	0	0	4	800	112.7	108.9
	補助散水栓	0	0	0	0	0	-	-
	ノズル	0	0	5	19	5,666	47.3	94.1
認定評価業務	装着番号付与 確認評価 依頼件数		更新等 依頼件数	製品確認評価				
屋内消火栓等	消防用ホースと結合金具の装着部	0	0	25	60,430	98.6	100.7	
認定評価業務	型式評価 依頼件数	型式変更評価 依頼件数	更新等 依頼件数	型式適合評価				
特定駐車場用泡消火設備	0	0	0	5	9,550	66.8	78.6	
認定評価業務	総合評価 依頼件数	型式評価 依頼件数	型式変更評価 依頼件数	更新等 依頼件数	型式適合評価			
放水型ヘッド等を用いるスプリンクラー設備(評価)	0							
放水型ヘッド等を用いるスプリンクラー設備・構成装置	0	0	0	10	10	125.0	120.7	
特定機器評価業務	総合評価 依頼件数	型式評価 依頼件数	型式変更評価 依頼件数	更新等 依頼件数	型式適合評価			
特定消防機器等	0	0	1	1	8	13,025	51.3	108.4
受託試験及びその他の評価	依頼件数				依頼件数	依頼個数	対前年 同月比(%)	対前年 累計比(%)
受託試験(契約等)	0							
受託試験(その他の契約等)					0	0	皆減	55.2
評価依頼(基準の特例等)	1							

※前年度の依頼個数が「0個」のものは、対前年同月比及び対前年累計比を「皆増」と表記いたします。

※今年度の依頼個数が「0個」のものは、対前年同月比及び対前年累計比を「皆減」と表記いたします。

※前年度及び今年度の依頼個数が「0個」のものは、対前年同月比及び対前年累計比を「-」と表記いたします。

編集 後記

春分の日を迎え、今年も早や三月（みつき）を過ぎようとしています。

当協会のホームページもまもなくリニューアルを予定しています。なかでも「型式情報検索システム」のリリースは特筆できると思います。

いままで、冊子において、型式情報を確認しておられたと思いますが、今後はご自身のスマホでも型式情報が検索できるようにいたしました。

しかも無料ですし、新しいアプリをインストールする必要もありません、当協会のホームページにアクセスしていただければOKです。

是非とも、型式情報検索システムをご利用いただき、現場での業務の一助になれば幸いです。

さて、今月号では、さいたま市消防局長の長江照夫様に巻頭のことばを、消防庁消防研究センターからは「令和7年度消防防災科学技術賞の作品募集」を、住宅防火対策推進協議会からは「令和6年度住宅防火防災推進シンポジウムの開催について」をご寄稿いただき、誠にありがとうございました。当協会からは「検定対象機械器具等及び自主表示対象機会器具等の技術上の規格に関する意見具申について」、「スプリンクラー試験室の試験設備の移転報告」を掲載しております。

4月号では、北九州市消防局長の岸本孝司様に巻頭のことばを、当協会からは「令和7年度日本消防検定協会予算概要」などを掲載する予定です。

検定協会からのお願い

検定協会では、消防用機械器具等について検定及び受託評価を行い、性能の確保に努めているところですが、さらに検定及び受託評価方法を改善するため、次の情報を収集しています。心あたりがございましたら、ご一報下さいますようお願いいたします。

(1) 消防用機械器具等の不作動、破損等、性能上のトラブル例

(2) 消防用機械器具等の使用例（成功例又は失敗例）

連絡先 東京都調布市深大寺東町 4-35-16
日本消防検定協会 企画研究課
電話 0422-44-8471（直通）
E-mail
<kikaku@jfeii.or.jp>

発行 日本消防検定協会

<https://www.jfeii.or.jp>



本 所 〒182-0012 東京都調布市深大寺東町4-35-16
TEL 0422-44-7471(代) FAX 0422-47-3991



大阪支所 〒530-0057 大阪市北区曽根崎 2-12-7 清和梅田ビル 4階
TEL 06-6363-7471(代) FAX 06-6363-7475



虎ノ門事務所 〒105-0001 東京都港区虎ノ門2丁目9番16号 日本消防会館11階
TEL 03-5962-8901 FAX 03-5962-8905

検定協会だよりはホームページでもご覧になれます。

当該刊行物にご意見・ご要望・ご投稿がありましたら、本所の企画研究部情報管理課検定協会だより事務局までお問い合わせください。

e-mail : kikaku@jfeii.or.jp 専用 FAX 0422-44-8415



日本消防検定協会